

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人三重大学

1 全体評価

三重大学は、建学以来の伝統と実績に基づき、基本的な目標として掲げる「三重の力を世界へ：地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。～人と自然の調和・共生の中で～」の達成を一層確固たるものにするため、その実践に努めることとしている。第1期及び第2期中期目標期間中の産学官連携事業における「地域のイノベーションを推進できる人財の育成」の成果を踏まえ、第3期中期目標期間においては、社会に積極的に貢献できる人材を育成するとともに、人文社会系（人文・教育）、自然科学系（医学・工学・生物）それぞれを核とした分野におけるイノベーションを推進し、地域の活性化・創生を目指すこと等を目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、「三重創生ファンタジスタ」を輩出する取組を実施するとともに、学外者を活用した附属病院監督管理委員会を設置するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 県内および東海地域でのインターンシップ受入先企業・団体との連携を強化するために、大学の学生総合支援・インターンシップ担当副学長、学長補佐、インターンシップ担当教員及び就職支援チーム事務職員が1～3月に企業・官公庁等を訪問し、教育的インターンシップへの協力を要請し、計46団体（うち三重県内32団体）と、教育的効果の高いインターンシップの実施と学生の安定的な受入れという内容を含んだインターンシップに関する協定を締結している。（ユニット「三重県内就職率の向上」に関する取組）
- 研究成果の社会還元と産学官連携活動の活発化を目的とし、大学独自の研究支援事業として、引き続き「三重大学中小企業との共同研究スタートアップ促進事業」を実施し、令和元年度においては新規31件、継続12件の計43件の共同研究を採択しているとともに、中小企業との共同研究数の増加に向け、共同研究や受託研究等の取組状況を把握・検証するため、平成29年度に新設した「社会連携戦略会議」に加えて、担当者間の情報共有を目的とした「社会連携連絡会議」を毎月実施するほか、共同研究の具体的増加策の検討に向け、教員、リサーチ・アドミニストレーター（URA）、事務職員等の産学連携スタッフ間で定期的な情報共有・意見交換を実施し、技術相談や共同研究の契約締結に向けた調整等を行っており、これらの結果、中小企業との共同研究数は208件となり、中期計画を達成している。（ユニット「中小企業との共同研究件数の増加」に関する取組）

## 2 項目別評価

## &lt;評価結果の概況&gt;

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載26事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

## ○ 学外者を活用した附属病院監督管理委員会の設置

部局の中でも特に大学運営に大きな影響を与える医学部附属病院の運営状況を監督するため、学長のもとに、理事・経営担当副学長・学外有識者3名の計5名を構成員とする「三重大学医学部附属病院監督管理委員会」を新たに設け、附属病院のガバナンス体制、予算執行状況、三位一体改革（働き方改革・地域医療構想・医師偏在対策）への取組状況等についてヒアリングなどによる点検が行われ、その結果は病院長と学長にフィードバックされ、附属病院と大学本部組織との一体的な運営体制のさらなる充実に大いに寄与している。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ 科学研究費補助金の獲得額の増

新たなりサーチセンター制度として、「若手リサーチセンター」制度を構築しており、代表者が39歳以下又は博士の学位取得後8年未満であり、かつグループの構成員の半数以上が39歳以下又は博士の学位取得後8年未満である研究グループを認定し、若手研究者の大型研究費取得をサポートしているほか、令和元年度科学研究費補助金においては学内採択率27.0%と比べ、科研費アドバイザー制度利用者の採択率が41.4%となり、第3期中期目標期間を通じて実施してきた「科研費アドバイザー制度」の成果もあり、前年度と比較し科学研究費補助金の獲得額が8.1%増加し、約7億3,000万円となっている。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載17事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ 最初の「三重創生ファンタジスタ」を輩出

「三重創生ファンタジスタ資格認定プログラム」を、副専攻コースとして全学部・全学科でスタートしており、事業の成果として、三重大学における最初の三重創生ファンタジスタ363名を輩出するとともに、連携する三重県内の高等教育機関においても6機関で計211名が認定されている。また、「三重創生ファンタジスタ」資格のうち、より地域活動を積極的に実施した学生に上級資格となるエキスパート資格を付与することを決定するほか三重創生ファンタジスタの養成はCOC+事業の終了後も「高等教育コンソーシアムみえ」の教育連携部会に引き継がれ、議論されていくことが決定している。

## 附属病院関係

### 【医学部附属病院】

(教育・研究面)

### ○ ゲノム医療に資する人材の育成を推進

令和元年度に院内でゲノム医療に関わる人材を集約して「ゲノム医療部」を新設し、厚生労働省から「がんゲノム医療拠点病院」の指定を受けるなど、ゲノム医療の体制強化及び人材の育成を推進している。

(診療面)

### ○ 救命救急・総合集中治療センターの体制強化

救命救急・総合集中治療センター所属教員による救急問題ワーキングを毎月1回開催し、センター運用報告と問題点や課題等に関する意見交換を行っている。加えて、消防署等と情報交換を重ねることで連携を強化し、救急患者の受入れ体制の改善に取り組んでいるほか、救命救急・集中治療室等の増床や、スタッフを充実している。これらの取組により、厚生労働省が実施する「救命救急センターの新しい充実段階評価(令和元年度実績)」で最も高いS評価を受けている。

(運営面)

### ○ 業務効率化や病院経営に対する取組

平成28年度には病院独自の「KKH 指標」(「KKH」は「稼働率」「急性期率」「必要度」の頭文字でそれぞれを数値化したもの)を設定し各診療科に示すことで、バランスの取れた病床稼働の意識付けを行っていることに加え、病院長、各副病院長を構成員とする「病院戦略ワーキング」を毎週1回開催し、現場から提案された問題点や解決案等の意見等を「マネジメント会議」に諮ることで業務の効率化を推進するなどにより、経営状況の恒常的な分析に基づく経営改善に取り組んだことで、令和元年度新入院患者数は17,757人(平成28年度15,010人)、手術件数は令和元年度7,714件(平成28年度6,276件)、入院診療単価は89,855円(平成28年度78,292円)といずれも増加し、令和元年度診療稼働額は262.7億円(平成28年度比34.1億円増)となっている。